

# 1番星

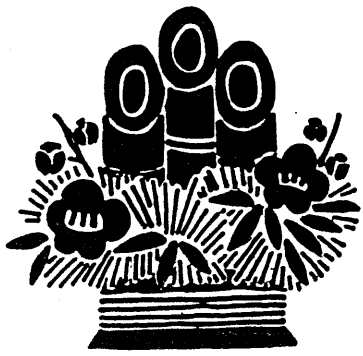
Vol. 25 1992. 1. 1

発行 長沼・楯谷税務会計事務所

発行責任者 長沼 淳子

## 謹賀新年

新年は1月7日(火)より  
平常通り営業させて  
いただきます。



## 人の問題と情報の活用について考える

所長 長沼 隆夫

ヒト、モノ、カネ、そして情報が経営力のバロメーターといわれています。モノ、カネはそれ程むずかしくなくなった今、ヒトの問題、情報の問題が企業経営者にとって重要な課題となっています。

### 1. ヒトの問題

#### 夢・ビジョン・計画

経営者は、ビジョンを持ち、夢を語り、将来を語る事がまず必要です。

大企業に対して小さい会社が、対等以上にアピールできるものは将来に対する期待をおいて他にありません。

会社と社員がともに共有できる夢・ビジョン計画づくりが中小企業には特に大切です  
労働時間の短縮

隔週又は完全5日制の実施も必要です。自由な時間、必要な時間が取れるかどうか、賃金よりも魅力と考える若者が増えています。

#### 仕事の面白さ

人は自分なりに考えてやれる仕事、自分を生かせる仕事に、働く喜びを見つけています。仕事の中身、仕事の仕方、責任分担などについて、もう一度見直すことにより、社員の「創造性」「創意工夫」が、生かせる職場作りが必要です。

反面、仕事の細分化、単純化により、経験がなくても誰にでもできる仕事、短時間でできる仕事はパート、高齢者の方々の活用を考えていくことも大切です。

従来からの福利厚生面の充実、合理化一辺倒だけではこれからの人の問題について解決することはできません。

### 2. 情報の活用

#### 判断と決断

「ヒント」「気づき」「知識」について、自社に合うのか、不向きなのか、取り入れるべきかどうかなど、経営者の判断と評価が将来に向かって大変重要となります。

「割り切り」「踏み切り」「思い切り」という決断も必要です。

自分なりに考え、決断する事も大切ですが、むずかしい問題、大事な事の判断、実行には「知識」「経験」「将来の予測」「人脈」も必要とします。

前もって聞いておれば、相談してくれておれば、と非常に残念に思うことがしばしばありました。

大事な事の決断には、それなりの専門家を使うこと、活用を考えて欲しい。私共は弁護士・社会保険労務士・司法書士の専門家とともにMAPグループを構成し、経営に関するさまざまな問題について迅速に解決できるよう努力しています。

## 農地に宅地化の波

東京、名古屋、大阪の3大都市圏の市街化区域にある農地の所有者は「保全すべき農地」か「宅地化する農地」かの選択を昨年未までにしました。

今回の改正は「宅地」と「農地」の線引きであり、厳しい規制を課して財産保全を目的とした擬装農地を困難にし、宅地促進をはかる政策です。2つの農地のポイントを整理してみると

### ①保全すべき農地(生産緑地)

(ア)生産緑地の指定を受けると、30年経過又は農業に従事することが不能な事由が生じない限り転用、(自治体)への買換請求ができない。

(イ)固定資産税が安い。宅地と比較して40分の1~80分の1ですむ。

(ウ)相続税の納税猶予を受けすることができる。(終生営農することが条件)

### ②宅地化する農地

(ア)営農しなくてよく、周辺の開発状況を見て宅地又は売却できる。(自己処分できる)

(イ)固定資産税が高くなる。(宅地並みの課税)

(ウ)農地ではないので納税猶予が適用できない。

宅地化する農地の方は、農地を手放すよりも安定収入を得るために賃貸住宅にするケースが多いと考えられ、これによりある程度住宅不足も補え、家賃の上昇率の鈍化が予測できます。

この法律により、地価が下がることは期待できませんが「土地神話」を一段冷やす心理的効果はあるでしょう。(山本)

## 確定申告のお知らせ

確定申告の時期がやってまいりました。

平成3年分以後の所得税についていくつかの改正が行われましたが、直接に関係あるものとして住宅取得等特別控除が改正されました。

毎年のことではありますが、確定申告に向けて必要書類の準備の方もよろしくお願い致します。

特にお願いすべき事項として・・・

①新しい帳簿への切り替え

②たな卸(材料・商品)のチェック

③1年間の自家消費

なお、ご不明な点やご質問がありましたら、電話にてお問い合わせ下さい。(森)

## 私をよろしく

中橋 幸治(なかはし こうじ)

・昭和38年2月10日生まれ

みずがめ座 O型

・趣味 旅行

・この度、8月付けで入社してまいりました。

新しい職場で戸惑っておりますが、これまでの経験を生かして、お客様の為に誠心誠意努力していきますので、どうか皆様宜しく願います。



## 3年目の挑戦



(司会) 1992年のスタートですが、入所2年目の二人にとってはどんな年だった?

(常光) 3歩進んで2歩下がるって感じですね。

(川上) 私は、今年前半コンピューター中心の業務でしたが後半は、少しずつ帳簿を見るようになったので、覚えることがたくさんできました。

(常光) 最近担当を持つようになり、毎日失敗と不安の連続です。1年目は、仕事の流れがわからず苦労しましたが、今は少しずつではありますが、理解できるようになりました。

(司会) それでは、今年の抱負を聞かせて!

(川上) 3歩進んで2歩さがるのを1歩にとどめて、2歩くらい前進したいです。

(常光) 仕事を頑張るのは勿論の事、今は少しでも社会人として、自立し落ちついた生活ができるようにしたいです。後を振りかえらず頑張ります。

(司会) 今の気持ちを大切にして下さい。

(常光・川上)

## 甲風



四国で最大級のあるビジネスホテルは、年末年始の8日間を完全休業にしました。本社の完全週休2日制の採用に伴うもので、ホテル業界では初の試みでした。

40代以上のサラリーマンには、会社にいるほうが休まるという人も多くおられます。学校も5日制が導入されようとしています。企業も学校も「土曜日どうする?」と言われている反面「過労死」がそのまま英語になっているこの国はいったいどうなっているのだろう! (谷口)

## 僕の初夢

今年こんな初夢を見ました。その初夢は僕自身が何をしてもうまくいく。毎日毎日が楽しくて仕方がない。仕事では担当の関与先が増え、とても充実している。そして、何事にも興味がわいているような事にも挑戦する。質問されても正確かつ迅速に解答しているというようなものでした。

こんな夢を見るということは、僕自身がそうなりたいと思っているからだと思います。夢が本当に夢に終わらぬよう日々の努力を惜しまず頑張りますので宜しくお願い致します。皆様にとってこの一年が良き年でありますように……。 (橋)